

平成 21 年 7 月 30 日
岩手県新型インフルエンザ対策本部

県政記者クラブ各位

抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」に耐性を示す遺伝子変異が検出された新型インフルエンザウイルス（インフルエンザ A / H 1 N 1）の確認について

県内で新型インフルエンザが確認された患者から、タミフル耐性を示す H 2 7 5 Y の遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが確認されたとの報告が、本日、国立感染症研究所からありましたので、その概要についてお知らせします。

なお、厚生労働省によれば、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの重篤度（病原性）には直接影響を及ぼすものではないとされています。

記

1 国立感染症研究所による遺伝子解析の内容

- ・ オセルタミビル耐性マーカー H 2 7 5 Y を検出した。
- ・ 季節性インフルエンザ A / H 1 N 1 ウイルスの遺伝子との交雑体ではないことが確認された。
- ・ なお、今回確認された遺伝子変異によって、当該ウイルスがタミフルに対してどの程度の耐性を有するかについては、今後、国立感染症研究所で実施する薬剤感受性試験の結果により最終判断されるものである。

2 患者の経過

- ・ 患者は、予防用タミフル投与中に発症したが、症状が悪化することなく既に治癒している。
- ・ その後、この患者から周囲への感染拡大は認められていない。

3 その他

- ・ タミフル耐性を示す新型インフルエンザウイルス（インフルエンザ A / H 1 N 1）は、国内で 4 例目の確認である。
- ・ なお、県内で新型インフルエンザが確認された他の患者については、タミフル耐性を示す H 2 7 5 Y の遺伝子変異は確認されていない。

担当：保健福祉部保健衛生課（五日市、小野） : 019-629-5467、5492